

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画

呉市立呉中央小学校  
(呉中央中学校区)

全国平均値との差

	国語	算数	理科
呉市教育振興基本計画〈指標〉	+6.0	+5.0	
令和8年度	—	—	—
令和7年度	—	—	—
令和6年度	—	—	—
令和5年度	—	—	—
令和4年度	+6.4	+3.8	+5.7

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組

◎…各学校 ◇…中学校区

<p><b>国語</b></p> <p>本校 <u>72.0%</u> 全国 <u>65.6%</u> 県 <u>67.0%</u></p>	<p><b>重点課題</b></p> <p>◎◇複数の文章や資料から、条件に合わせて自分の考えが伝わる文章になるように書くことに課題がある。(設問3二)【書くこと】(平均正答率 50.6%)</p> <p><b>改善の方策</b></p> <p>◎◇条件に照らし合わせて、文中から要約の中心となる重要な語句を見つけて、文章を書き、互いに読み合っ、評価する活動を位置づける。</p> <p><b>検証</b></p> <p>◎◇全国学力(設問3二)の類似問題(第3~6学年, 2月)目標70% →結果 第3学年87%, 第4学年79%, 第5学年75%, 第6学年70%, 全国学力(設問2三)の類似問題(第9学年, 1月)目標70%→結果62%</p>
<p><b>算数</b></p> <p>本校 <u>67.0%</u> 全国 <u>63.2%</u> 県 <u>64.0%</u></p>	<p><b>重点課題</b></p> <p>◎辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶことに課題がある。【図形】(平均正答率59.0%, 全国平均との差-7.9) ◇全国平均を3.6ポイント上回っているにもかかわらず、どの領域も記述式の問題に課題がある。正答率が低だけでなく、無回答率が高い。(正答率, 全国平均との差-0.2)</p> <p><b>改善の方策</b></p> <p>◎前期では、教材等を活用し、図形を作成する体験的な活動を行い、また、図形の構成要素やそれらの関係に着目して分類・弁別をするという操作的な活動を設定する。その上で、第4学年と中期・後期を通して、課題となるひし形を含めた図形の作図について、図形を構成する要素やそれらの関係に着目して、作図の手順を筋道立てて考え、説明する活動を設定する。 ◇授業の中で、自分の考えを発表したり説明したりする場面を増やすとともに、小テストなどで記述式の問題の経験を積ませる。</p> <p><b>検証</b></p> <p>◎◇全国学力(設問4(3))(第5・6学年, 1月~2月)目標70%→結果80%, 90% 全国学力8(2)の類似問題(第9学年, 11月)目標50%→結果48% データの活用に関する2学期末試験の問題(第9学年, 11月)目標55% →結果57%</p>
<p><b>理科</b></p> <p>本校 <u>69.0%</u> 全国 <u>63.3%</u> 県 <u>66.0%</u></p>	<p><b>重点課題</b></p> <p>◎習得した知識を生活の中の現象と結びつけて考え、科学的な言葉や概念を理解して説明することに課題がある。【自然の事物・現象の理解】(平均正答率53.0% 全国平均との差-9.0) ◇学習した内容と日常の中の現象を結びつけて考えたり、イメージ化したりすることに課題がある。</p> <p><b>改善の方策</b></p> <p>◎生活科では体験活動を通じた気付いたことと、他の自然現象や日常生活とのつながりを意識させる指導を行う。理科の指導では、知識として習得した科学的な言葉や概念を日常生活の中の現象と結びつけた指導を行ったり、説明する場面を設定したりする。また、仮説を立てる際に、日常の場面を設定する等の工夫を行う。 ◇自然現象について、疑問をもたせることに重点を置いた指導を行う。</p> <p><b>検証</b></p> <p>◎全国学力(設問4(4)の類似問題)(第5学年, 12月)目標80%→結果94% ◇全国学力3(1)の類似問題(第9学年, 10月)目標70%→結果87% ◇全国学力5(1)の類似問題(第9学年, 11月)目標70%→結果60%</p>

【来年度に向けて】

小学校では、全教科で目標を達成する結果となった。中学校では、正答率は上がっているが、目標に届かないものもあった。小中一貫校の強みを生かし、第1学年から第9学年の系統立てた取組を今後も継続していきたい。